

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
1	【協働事業】 地域まるごとで孤育 を予防する連携シ ステム事業	まつどでつながるプロ ジェクト運営協議会	子ども政策課	●市民サポーター養成は大切な取り組みだと評価していますが、それ以上に注目したのは地域円卓会議でした。そこを軸に関係者と連携する仕組みづくりに挑戦した3年であったと認識しています。地域円卓会議は松戸市の協働のまちづくりを推進するノウハウなので、団体と事業担当課はこの事業によって得た経験知を整理することを期待します。 ●3年間の協働事業の取り組みについて、大きな成果を残されたと思います。地域円卓会議の継続と関係者との相互研修会の開催など、今後に期待いたします。また、庁内の他課との連携も視野に「こどもまんなか」地域づくりに進めていただきたいと思います。 ●「円卓会議」そのものが横並びのネットワークを作るガバナンス(協治)の仕組みづくりの前提である。その際行政は「黒子」の役割を果たすといわれる。しかし、行政職員はその分野の専門家である。彼らの意見を集約するためのLINEを活用したOpenChatなどの工夫をされていることは評価できる。これからも地域の課題解決のために、子ども政策だけでなく、多方面で活躍していただけることを希望します。 ●円卓会議参加者が増えた事、特に市の専門職の参加や、教育、福祉の連携が図られた事は大変な進展かと思えます。是非とも事業継続してくださればと思います。市民サポーター養成講座の課題を次の展開に生かしてください。 ●本当に必要な家庭に手を差し伸べられる体制づくり、意識の醸成につながってほしいと思います。協働事業提案制度満了後も市との連携を強くして松戸全体で盛り上がっていくと虐待など子どもが巻き込まれる事故が減ると思います。 ●今後さらに市役所の他の部局も巻き込んで大きな動きにしていだけたらと期待しています。子育てについても協働についても意識に差のある人々を「関係者」にしていける仕組みは他の自治体にとっても有意義な財産になるのではないかと思います。 ●円卓会議は、目標よりも参加者が多かったとのこと、また市職員の方の参加も多かったとのことで、意識を持った方々が増えていることと、そういった方々にとってとても有益で必要な場であったことがわかります。協働事業提案制度としては満了となりますが、今後も担当課と事業連携するとのことで、長く継続される取り組みとなることを期待しています。市民サポーター育成の課題は認知の拡大になるように感じました。既存の仕組みや人材制度への適用なども認知拡大に貢献する取り組みとして期待できると思いますし、もう少しライトな層へのアプローチもあるとよいのではないかと思います。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
2	【協働事業】 町会・自治会の活動 をPRして親しみを もってもらおう事業	できる街プロジェクト	市民自治課	●マンガとアニメで表現形態の選択肢を増やし、市役所が市民へ「伝えたい情報」を「伝わる情報」へ変換するやり方を試行した3年度であったと評価します。 ●町会・自治会活動を漫画やアニメで紹介する手法が新しく、他市にも広がるのではないかと思います。また、漫画冊子の継続配布、活用できることに期待しています。若い世代の転入者に届けていただけるように、そして町会・自治会活動への理解が進むようにと願っています。 ●松戸の地域パートナーシップを充実させるためにご活動いただきありがとうございました。町会・自治会の加入率は各地で低下が止まらない状態である。今日の取り組みはその歯止めをかけるべく現世代だけでなく漫画などを活用し、次世代にも町会・自治会の意義を示していることは重要である。このような活動は協働事業として市の単独事業として委託としてでも推進すべき取り組みであろう。是非お願いしたい。 ●この事業は協働事業担当課との明確な役割分担で成されたと感じています。市民の方の町会・自治会加入率の現状維持は一つの成果です。成果品活用に期待します。 ●加入の数につなげるには顔の見える地道な活動が大きいと思います。デジタル化と共に冊子も必要と考えます。なくさずに継続してほしいと思います。 ●今回作成されたマンガアニメは市の財産の一つであるとともに日本の他の自治体でも役に立つのではないかと思います。(他の自治体との)横のつながりを作ったり、「松戸モデル」として広げたりできるとさらに大きな動きになるのではないかと期待しています。 ●継続して利用できる素晴らしいPR媒体が出来たと感じました。特に冊子は転入者に転入時にお渡しできるということで、町会・自治会活動を認知してもらえる可能性が高いと感じました。今後も、転入者への配布を継続いただき、また可能であればその時にあった内容への改定もご検討いただきたいと思います。一方で、動画については実際に視聴に至るまでのハードルが高いのかな、と感じました。自治体の取り組みとしては難しいところもあるかとは思いますが、何かしらのキャッチーさがやはり必要なのではないでしょうか。取り組みとしては動画が主かと思いますが、冊子を導入のキーとして動画への導線を意識的に検討すると、より高い効果を生み出せるアプローチが見つかるかもしれないと感じました。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
3	【ステップアップ助成】 四世代のきずなで、 豊かな生活環境を実現する事業	小金原みんなでわく わくする会		●取り組み内容を見直し、整理して限られたマンパワーを集中させたのは、この団体の柔軟性を示しています。柔軟性は、団体の外から新しい力を呼び込みます。それを強みの一つとして活動を継続することを期待します。 ●「四世代のきずな」を深めることを目的に活動されたこと、SDGsの学習から始められたことに良い取り組みだと思いました。自治会と連携した活動はどうしても、できあがったプログラムに参加を呼びかけることが多いために、どうしても主体的な参加につながりにくいかと察します。企画の段階から参加するしくみづくりを取り入れていただければ、身近な活動が自分ごとになるのではないのでしょうか。 ●これまでの小金原の地域活動を新しい知識で整理し、意欲的に取り組んでいることは評価できる。日本ではSDGsは国連の提唱により批准することになったが、日本の町内会の取り組みは全国各地を支えてきたということでも世界的に評価されている。これをSDGsという概念を用い、整理し更なる連携協働を推進させているこの地域の取り組みはこれからも応援したいと思う。 ●事業計画であっても実施不可事業は再度見直しをし、進めていく点は評価できます。四世代交流事業が地域町会・自治会との連携を密にして更に発展することを期待します。 ●地域の限定された集団とSDGsの取り組みはとても相性がいいと思いました。成果が見やすくやる気がでると思います。次世代のリーダーの育成を頑張って長く継続してもらいたいと思います。 ●活動が参加者やスタッフの皆さんにとって義務や負担になってしまうと世代間の溝が広がってしまうのではないかと思いますので、負担にならないような仕組みや体制を築き上げていただけたらと期待しています。 ●非常に盛り沢山の取り組みだと感じていましたが、その中でも実施について検討し取捨選択されていることは素晴らしいと感じました。20代以下の若い世代の参加を増やしたい、とのことでしたが、世代的には住んでいる場所と主として所属するコミュニティの関連が薄い世代かと思いますので、なかなか難しい課題かと思います。小学生以下は、保護者を通して地域との関わりが深い世代なので、そこからコミュニティを育てていくのが遠そう近道なのかもしれません。質疑の中でも出ていた、企画から若い世代に参加してもらおう、というアプローチも例えば子どもたちがやりたいと思うイベントを実現するために大人が協力するという座組で考えるとより効果があるのではないかと思います。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
4	【協働事業】 みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業	エディブルウェイプロジェクトチーム	みどりと花の課	●協働事業2年度目で事業の理念と方法が活動地域内に普及定着がより進んだと評価します。みどりと花の課が北小金でエディブルガーデンを設営したことは、この事業がいろいろと応用が利くことを証明していると思います。 ●まちのプランター活動、種取り・交換会など交流、市民参加のしくみづくりを実践、積み上げ、ステップアップされたことを実感します。みどりと花の課と協働することで他地区での広がりができることに期待します。是非にガイドブック等作成して、全国に展開できることも夢ではないと思います。 ●「植」「食」によるまちづくりの本市での実践としては非常に評価できる。ガバナンス(協治)では多角的な活動主体(アクター)が結びつき、より大きなネットワークができることが理想である。今日は地域・市・学校・さらに行政・地域包括支援センターへもネットワークが広がり、松戸のガバナンスが出来上がっているように伺える。今後もこのような取り組みを続けていただきたいと思う。 ●まちのプランター管理は参加者(ボランティア)の日々の活動に委ねられます。その点に着目して、まちのプランター活動に参加する方向けのワークショップを増やしたのは良かったと思います。市内外やメディアから注目される取り組みになっている事に今日までの貴団体の取り組みに敬意を表します。更に担当課と協働して広く市内で展開してください。 ●情報発信の中にこの活動の始め方ややり方なども入れると他の地域にも広げていけるとと思います。松戸発信で松戸の知名度も上がるかもしれません。マネしたい地域はたくさんあると思います。 ●活動を続けていくには、人と資金が必要になっていくと思います。是非、応援団を増やして次のステップを目指していただけたらと期待しています。 ●一つの取組みとして、継続と発展を続けており素晴らしいと感じます。今後の目標は、他の団体も実施できるようなパッケージングとそれを活用した横展開と認識しました。Youtubeなどで公演動画なども拝見しましたが、この取り組みを知ることで「やってみたい」と考える方は少なからずいらっしゃると思いますので、是非今後も情報発信を続けていただければと思います。質疑の中で、特許や商標などの取得のお話などもありましたが、そういったものを通じて、同様の取り組みをされる方たちの繋がりを組織的に明確化するのもよいかもしれないと思いました。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
5	【協働事業】 まつど de SDGs の輪 を広げようプロジェク ト事業	まつど地域活躍塾つ ながりの会	政策推進課 SDGs推 進担当室	●2023年度の反省を踏まえて実行可能な事業内容にしたことが功を奏したと評価します。団体と事業担当課の二人三脚の効果が得られたと思います。 ●SDGsの輪を市内に広げるために地域学習会やフォーラムなど展開されてきましたが、事例集をみると市民の身近な活動から理解がさらに広がると思います。Webページへの案内紹介などにも取り組んでいただければと思います。 ●「地域活躍塾」の卒業生でこのような地域活動に携わっていることは、地域活躍塾を立ち上げた意義にかなっており市民自治課としても誇れることであろう。松戸市が「未来都市」という指定を受けたことも相まって、この事業の役割も高まるだろう。地域活躍塾の活動分野は広がっているが、専門性を高めるためにももう少し個別・具体的な核となる事業を固め、担当課と連携・協働して本市のために頑張ってください。 ●年度末に高校生をパネラーの一員として開催できたフォーラムは一定の成果があったと思います。若い世代への発信は重要な取り組みと考えます。地域学習会開催ノウハウは今日までの実績で得られていると思いますので今後は参加者増が計られる工夫をお願いします。 ●参加・参画してくれる企業が増えるとさらに加速すると思います。未来を担う子ども達の意識醸成なども視野に入れると、長く活動していけるのではないかと感じました。 ●持続可能な社会を作り維持していくことは、未来永劫続けていく必要があろうかと思いますが、SDGs自体は2030年という時限付きの取り組みですので、活動をクロージングに向かいつつ、次のステップを目指されることを期待しています。 ●SDGs 事例集が公開されたことはとても重要だと感じています。個々の取り組みが独立している状態ではなく、一つの目標に向かった取り組みが集約されることで単なる足し算以上の効果があると思います。ウェブ上に見える形で記録・集約することで、松戸での SDGs の取り組みのハブとしての機能が期待されます。今回はpdf形式でしたが、個別の事例への参照性が悪いので、是非一般的なウェブページの形式でも情報を集約してってください。今後の事業展開では、公開された状態での情報集約について、明示されていないようでしたが、是非次期取り組みでも同様の情報集約と公開をされることを期待しています。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
6	【スタート助成】 『まつどちゃん』シリーズ製作事業	まつどアソビティ		●切口は面白く、関わった子どもたち16人にとって良き体験になったと思います。やりたいことを実現する態勢づくりが問題点として浮かびあがったのは、この事業の別の意味での成果であったと認識します。今後は、市内大学のボランティアセンターや教員との接点を持ち、大学生たちを巻き込むやり方を検討してください。 ●YouTubeを活用した取り組み、参加した子どもたちにとっても新鮮な活動であったと思われます。始めて助成を受けて活動されて戸惑いがあったと察します。市民活動は活動資金も必要ですが、活動する仲間が一番の資源です。メンバーを募ってさらに楽しさも増やして継続されることに期待します。 ●松戸の子育ちの視点に立った素晴らしい取り組みである。ことに「まつどちゃん」という子どもが遊び場を提案するこの事業は子どもの視点からの松戸紹介としての意義は大きい。松戸の市の施設は松戸の子どもたちは知っていても中身や実態を知ることは少ない。松戸の子どもに自治体内の施設を知ってもらい、松戸市に興味を喚起する効果は測り知れないだろう。これからもよろしくお願いします。 ●子どもが主役、子ども目線での発信はとても良い活動だと思います。地域の子どもたち、保護者や協力者で協働する作業の中に培われた関係はとても良い経験かと思います。 ●松戸市の良いPRになると思いました。行政や民間から受託できる内容だと思いました。 ●団体、取材先、保護者、スポンサーと多数の大人の思惑が絡み合う中、子どもたちの主体性を引き出し続けるのはとても難しいだろうと思いました。例えば、動画制作講座のように、継続的に関係性を作りつつ子どもたちが主体性を発揮できる部分をうまくコントロールできると、直面している課題のいくつかは解決できるのではないかと思います。活動が再び盛り上がっていくことを期待しています。 ●コンテンツを観てようやく意義をきちんと理解できたと感じました。とてもおもしろいコンテンツで、編集もよくできていて、退屈になりそうなテーマを楽しく飽きずに観られる内容になっていました。松戸に住んでいて、周りでなにかおもしろいことはないか、と考えている方たちに松戸に興味を持ってもらえる内容だと思います。また、子どもたちにいわゆる Youtuber 的な体験を安全に経験してもらえるという点でも、よいコンテンツになっていると感じました。負担が大きかったとのことで継続されないのは残念ですが、仲間を募るなど負担軽減対策を実施いただいて、是非また復活していただきたいです。文化観光などの視点で松戸市との連携などの余地もあると思いますので是非ご検討ください。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
7	【スタート助成】 「おひとりさま安心」講演会・相談会事業	特定非営利活動法人 おひとりさま安心コン シェルジュ		●「おひとりさま」は、高齢者単独世帯が増加している中で、時世に適った切口です。一方、事業実施で実質「おひとりさま」態勢になったことは、着想を具体的な結果に結びつける上で問題でした。団体内のガバナンス及び進む方向について、関係者と丁寧に話し合い、合意点を見出すことを期待いたします。 ●講演会、相談会に来てほしい方、対象者に届く情報提供を検討していただくことが今後の課題です。自分たちがやりたいことは自分たちの資金で実施することが市民活動の基本です。 ●今後の高齢社会、ますます一人暮らしの高齢者世帯が増えるだろう。その意味でいわゆる「お年寄り」が話す機会、そして相談する必要性が高まる。また、孤立しがちな市民を行政をはじめ地域包括支援センターなどともつなげ、さらに逆に包括支援センターからも依頼が来るとされる重要な活動である。松戸の高齢者にとっても必須ともいえる事業であるからこそ、持続可能性を高めてほしい取り組みである。 ●事業対象者である「おひとりさま」への周知方法は市広報の他にも複数の手段が必要であったと思います。社会資源の包括支援センター等他団体との連携をもっと積極的に図ってはいかがでしょうか。高齢者等の成年後見支援は大切な事業と思いますので、今後の活動に期待します。 ●事業を充実させるためにも様々な方の協力が必要なのではないでしょうか。無理なく続けられる体制作りができるとういと思います。 ●活動に対するニーズは、今後ますます高まると思われます。市民の期待や需要に応えられることを期待しています。 ●「おひとりさま」という言葉のわかりやすさと、それによって「おひとりさま」でない方が、自身が対象でないと考えてしまうというデメリットについては、確かにそのとおりの思いました。「おひとりさま」とあわせて、もう一つキーワードを組み合わせても良いのかもしれませんが。取り組み自体は素晴らしいのですが、今回は時間がない中で告知に課題が残ってしまったのだと捉えました。是非、体制を立て直して活動を再開されることを期待しています。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
8	【スタート助成】 ぶどうの家 おもしろ 実習教室 事業	特定非営利活動法人 葡萄の家		●計画に掲げている2つの事業目的は大切なものですが、事業目的に達するための手法と内容がズレていたと思います。目的を出口と例えれば、入口と道筋を間違えると出口へ至りません。出口に通じる入口と道程を塾考したうえで、助成事業や協働事業に手を挙げて来るのを期待します。 ●10回目のおもしろ実習教室の開催ですが、10年経って参加者のニーズは変化しているのではないかと思います。障がいの理解を深めるためのイベントや障がい者が地域に出ていく機会の提供は大切なことなので、さらに企画内容を検討されることを願います。 ●障がいの有無にかかわらずにノーマライズにそして行き届かない施設にも参加してもらおうという当該事業の趣旨は評価できる。近隣市にも広報しようとしたとのことであったが、是非、まずは松戸市の担当課と協働・連携し、推進していくのはいかがでしょうか。ノーマライゼーションを推進し、現在ダイバーシティとしてこのような事業の意義は大きい。行政担当課とより一層の連携を期待します。 ●貴団体が今後も展開する「おもしろ実験教室」が障がい者や施設への理解と支援につながる教室として展開される事を期待します。 ●内容はとても良いと思います。継続して行ってほしい事業です。計画の立て方や、資料の見せ方、プレゼン内容などでイメージは変わりました。様々な方の助言など聞いてみるとさらに良い事業になると思います。 ●障がいに対する理解を深める・広めるという目標を達成するには、多くの方に開催情報を届ける、そして参加していただくことが重要と思われます。チラシを小学校で配布するなど周知を広げる努力が続けられることを期待しています。 ●資料にも記載がありましたが参加人数が目標に届かなかったのは、会場の場所も少なからず影響したのではないかと思います。障がいのある方の参加が減ってしまったのも残念でした。取り組みの目指すところは素晴らしいです。ただ、その実現は一筋縄ではいかない難しさがあるのだと理解しました。今回の結果も含め今までの実績を元に次の取り組みにつなげていただきたいと思います。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
9	【スタート助成】 社会起業家・副業家 としての創業機運醸 成事業	サスティナブルな市民 活動研究所		●意欲的で挑戦的な事業内容で一定の結果を得たことは、団体の実行力を示していると思います。事業を介して新しい問題に気づき、それに向き合う新しい団体を発足させることも感心します。自分たちの限界値がどこにあるかに挑戦する時期だと勝手ながら見えています。それを経て助成事業や協働事業に手を挙げて来るのを期待します。 ●ソーシャルビジネスの起業には、資金、人、モノ、情報、ネットワークなどが必須です。そして何を解決したいのか、解決へのアプローチ方向、手法などの絞ることが重要です。また、支援するためには様々な機関や団体と連携することが求められ、机上の論理ではなかなかやってみようにつながらないのではないかと思います。 ●ソーシャルビジネスを持続可能なものにしていこうという趣旨、また、働きながらそのような事業に携わる「社会副業家」をつくっていこうという趣旨はこれからの松戸にとっては必要な事業であろう本来ならば日本では行政(市)が行っている当該の事業を実施されていることには御礼申し上げたい。こちらの団体が今後どのようにサステナビリティを高めていくのか興味深く見ていきたいと思う。 ●非営利団体が長期的に活動を継続できるよう、人材や資金面で支援する、又はそのノウハウを構築していく事は、活動団体にとって心強い事だと思います。今後は市民活動に参加したいと考える人にとって、貴団体が実施する事業が、活動のきっかけになるよう、展開に期待します。 ●サスティナブルは人・もの・かね、ではありますが、かねの中に個人の利益も含まれないと持続不可能と思います。人生リデザインは、価値(=利益)を感じる方が多いと思いますので、手法や見せ方次第で市民を巻き込んで行けるのではないかと思います。 ●ミドル世代、現役世代にはWeb広告も有効かと思われます。広報誌やチラシに限らず、多様なメディアを積極的に活用され、より多くの方を巻き込んでくださることを期待しています。 ●トライアンドエラーで次の取り組みにシフトしている様子は、新しい時代の団体だと感じました。今回ご報告頂いた取り組みも、マッチするニーズを持った方たちは少なからずいらっしゃるのではないかと思います。そういった方々へにまだまだ情報が届いていないのではないかと思います。助成事業としての継続はされないとのことでしたが、発展した取り組みも含め、是非また助成事業の活用も検討していただければと思います。

令和6年度実施分 協働事業・助成事業 事業成果報告会 評価コメント

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
10	【協働事業】 日本語を母国語としない子どものための 学習支援事業	認定NPO法人外国人の子どものための勉強会	国際推進課	●なぜこの問題に取り組むのか、なぜ国際推進課が協働のパートナーなのかを両者で共有して事業に取り組んだと認識します。事業計画に則した事業実施または合理的な変更など団体の力量が確認できます。これまでの取り組み成果を多くの市民へ伝わる形で「見える化」「伝える化」し、外国由来の子どもの将来の選択肢が多い松戸市であることに誇りを持つ市民が増えて、地域との協働が広がることを期待します。 ●学生のボランティア参加がすすめられたことがよかったです。また、教室も増やし、担い手研修、養成ができたことは協働事業ならではの成果であると思います。今後、市国際推進課は会場の確保や室料軽減等も検討し、勉強会が継続できるよう支援していただきたいと思います。 ●松戸においても、ベトナムや他の国々から人々が増えている。その中で当該団体の活動は大いに期待できるものである。子どもたちは言語の壁にぶち当たり、地域社会に溶け込んでいけないのは残念である。このような問題から日本各地の国際交流協会をはじめ国際交流等担当課も当該事業に取り組んでいる。これからも大学など学校との連携を深め、さまざまな分野に拡げていっていただけることを願っています。 ●約30年近くの活動実績に裏打ちされた事業内容に敬意を表します。本市でも増加する外国人のお子さんのための勉強会・勉強の場は必要です。今後も行政や地域との連携を更に密にした事業推進を希望致します。 ●母国語が日本語でない住民が増える中で、必要性の高い事業だと思います。続けていく為に、行政の力が絶対的に必要な気がします。他団体との連携も含め制度を見直しても良いと思います。頑張ってください。 ●場所の確保については、空き家の利活用など、使えるリソースをうまく利用されると現在の教室体制の安定感が増すのではないかと思います。活動の場が確保され、事業の維持・発展が実現されることを期待しています。 ●今までの取り組み、本当に素晴らしいと思います。協働のまちづくりの提案事業としては期間満了とのことで、今後の継続については実施されているみなさんが継続できることが最も重要な点かと思います。自治体の負担と、参加者にご負担いただく部分も含め、大変で難しいと思いますが、どうしななければならないのかご検討いただき、是非、この取り組みが継続されることを願っています。